



令和5年1月19日

独立行政法人日本学術振興会

## 第13回（令和4(2022)年度）日本学術振興会 <sup>いくし</sup>育志賞の受賞者決定 （18名の優秀な大学院博士後期課程学生に授賞）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 杉野 剛）は、本会に設置されている育志賞選考委員会（委員長 清水 孝雄：国立国際医療研究センタープロジェクト長、微生物化学研究所長）の選考に基づき、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生18名を日本学術振興会育志賞受賞者として決定しましたので、お知らせいたします。

<育志賞ウェブサイト： <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>>

### 1 日本学術振興会 育志賞について

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、本会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会育志賞」を創設し、今回が第13回目となります。

本年は、大学の長及び学術団体（学会）の長から166名の大学院博士課程学生の推薦があり、大学長経験者等の有識者にて構成される選考委員会で厳正な審査が行われ、受賞者18名を決定しました。

### 2 授賞式等について

令和5年3月頃に日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）において、授賞式が行われる予定です。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、中止・延期となる場合があります。

（お問い合わせ）

独立行政法人日本学術振興会 人材育成事業部 参事 樋口 和憲

電話：03-3263-1897（直通）

## 第13回（令和4（2022）年度）日本学術振興会 育志賞 受賞者一覧

※五十音順、年齢は令和4（2022）年4月1日現在、所属機関は令和4（2022）年5月1日現在

受賞者氏名 (性別)(年齢)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
アベ ヨシアキ 安部 佳亮 (男)(33)	筑波大学 (人間総合科学研究科) (疾患制御医学専攻)	筑波大学	一細胞解析によるヒトリンパ節・リンパ腫の非血液細胞アトラスの構築と間質モデリングの全容解明
オオサキ ハルナ 大崎 晴菜 (女)(26)	岩手大学 (連合農学研究科) (地域環境創生学専攻)	種生物学会	植物間相互作用の発生メカニズムと植食者に対する波及効果
オオタ エレナ 太田 英伶奈 (女)(30)	早稲田大学 (文学研究科) (人文学専攻)	早稲田大学	中期ビザンティン美術から見る死生観——「私審判」と「最後の審判」を中心に——
キタザワ ムネヒロ 北沢 宗大 (男)(27)	北海道大学 (農学院) (環境フロンティアコース)	日本鳥学会	農地景観における鳥類多様性の広域・長期評価:農地の拡大と放棄に着目して
クロヤナギ チアキ 畔柳 千明 (女)(31)	東京大学 (総合文化研究科) (地域文化研究専攻)	日本ロシア文学会	ロシア帝国の北京宗教使節団の研究:東西交流史から見た18-19世紀ロシア・中国関係
コイケ タイチ 小池 太智 (男)(26)	東北大学 (理学研究科) (化学専攻)	東北大学	ケイ素を基軸とした未踏分子系の創製
コクボ マサトシ 小久保 智淳 (男)(26)	慶應義塾大学 (法学研究科) (公法学専攻)	慶應義塾大学	認知過程の自由 —憲法学と神経科学—
サカモト タカヒロ 坂本 貴洋 (男)(26)	総合研究大学院大学 (先端科学研究科) (生命共生体進化学専攻)	総合研究大学院大学	自然選択の理論集団遺伝学
タカクワ マサヒト 高桑 聖仁 (男)(25)	早稲田大学 (創造理工学研究科) (総合機械工学専攻)	早稲田大学	フレキシブルエレクトロニクス同士の集積化接合に向けた薄膜上の金電極同士の直接導電接合技術の開発。接着剤を使わずに水蒸気プラズマ処理による活性化接合を目指した。

受賞者氏名 (性別)(年齢)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
タニグチ ダイスケ 谷口 大輔 (男)(26)	東京大学 (理学系研究科) (天文学専攻)	日本天文学 会 東京大学	赤色超巨星の探究:時間変動、進 化経路、そして天の川銀河研究へ の応用
タノムラ リョウタ 田之村 亮汰 (男)(27)	東京大学 (工学系研究科) (電気系工学専攻)	電子情報通 信学会	多面光波変換によるロバストかつス ケーラブルな光通信・演算システム の実証
トモフジ ヨシヒコ 友藤 嘉彦 (男)(28)	大阪大学 (医学系研究科) (医学専攻)	大阪大学	新規メタゲノムショットガンシーケ ンス解析手法の開発および疾患・ 食生活・民族と腸内微生物叢の関 連の解明
ナカザト イッセイ 中里 一星 (男)(25)	東京大学 (農学生命科学研究科) (生産・環境生物学専攻)	日本育種学 会	植物オルガネラゲノムの標的一塩 基置換
ナナシマ ミキト 七島 幹人 (男)(26)	東京工業大学 (情報理工学院) (数理・計算科学コース)	東京工業大 学	学習の複雑さ、計算の複雑さ、お よび、暗号の等価性証明に向けた 研究
ホシ イクオ 星 郁雄 (男)(26)	千葉大学 (融合理工学府) (基幹工学専攻)	千葉大学	IoT を志向した新しいイメージング システムの研究
ムグルマ カエデ 六車 楓 (女)(26)	大阪大学 (文学研究科) (文化形態論専攻)	大阪大学	古代中国の身体観—新出土医学 文献の読解を軸に—
ヤスミズ ヨシアキ 安水 良明 (男)(28)	大阪大学 (医学系研究科) (医学専攻)	日本免疫学 会	制御性 T 細胞を基軸とする自己免 疫疾患の包括的理解と創薬
ヤマグチ ソミ 山口 そのみ (女)(26)	東京大学 (理学系研究科) (生物科学専攻)	日本蛋白質 科学会	ショウジョウバエの RNA サイレンシ ング因子の構造機能解析

## 「日本学術振興会 育志賞」の概要

— 優秀な大学院博士後期課程学生の顕彰・支援 —

### 1. 事業の趣旨

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設しました。

### 2. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

### 3. 対象者

以下の①②の条件を満たす者を対象とする。

- ① 我が国の大学院博士課程学生（海外からの留学生を含む）であって、令和4（2022）年4月1日において34歳未満の者で、令和4（2022）年5月1日において次の1）から4）のいずれかに該当する者（5月1日に休学中の者の扱いについては、※参照）

- 1) 区分制の博士後期課程に在学する者
- 2) 一貫制の博士課程3年次以上の年次に在学する者
- 3) 後期3年だけの博士課程に在学する者
- 4) 医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制博士課程に在学する者

※ 5月1日に休学中の者については、11月1日までに復学を予定している場合には、推薦できます。この場合は、令和4（2022）年11月1日において、1）から4）のいずれかに該当する必要があります。

- ② 大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者

### 4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学の長（大学長推薦）

推薦数：人社系、理工系、生物系各1名、その他に分野を問わず1名の計4名まで

- 2) 我が国の学術団体（日本学術会議協力学術研究団体に限る）の長（学会長推薦）

推薦数：1名まで

## 5. 選考方法

推薦のあった候補者について、書類選考により面接選考対象者を決定し、面接選考を経て、日本学術振興会に設置する選考委員会において、受賞者を決定します。

## 6. 選考基準

学業成績が優秀で、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいること。選考に当たっては、本賞の趣旨に鑑み、次の①から③を重視します。

- ① 我が国の学術研究の将来を担う研究者となりうる卓越した能力を有しており、将来学界等への貢献が期待されること
- ② 将来、更なる研究の発展が見込まれ、卓越した研究者に成長していく可能性を有していること
- ③ 経済的に困難な状況や、研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして、主体的に研究を進めていること

## ※上記に該当する者の例

- 発想・着想、課題設定などにおいて、創造性・独創性が高い研究に主体的に取り組んでいる者
- 当該学問領域や学際領域における重要な基盤となる研究に主体的に取り組んでいる者
- 研究活動に関連する、ユニークな活動に主体的に取り組んでいる者
- 短期的には論文等の成果が出にくい研究に対して、忍耐強く取り組んでいる者

## 7. 授賞等

授賞数は16名程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します。

## 8. 受賞後の取扱い

受賞者は、希望により、所定の申請手続きを経た場合、受賞の翌年度から「日本学術振興会特別研究員（PD）」等に採用され、研究奨励金等（PDの場合：月額36万2千円を予定）が支給されます。

## 9. 第13回（令和4（2022）年度）日本学術振興会 育志賞 推薦状況

大学長推薦	学会長推薦	計
118名（113名）	58名（50名）	166名（155名）

（ ）内は、前年度の人数

※合計数は、重複推薦を1名として計上

## 10. 第13回（令和4（2022）年度）日本学術振興会 育志賞 日程

推薦依頼	令和4(2022)年3月15日
推薦書受付	令和4(2022)年5月26日～31日
予備選考（書面選考）	令和4(2022)年6月～10月
予備選考（面接選考）	令和4(2022)年11月
選考委員会	令和5(2023)年1月5日
授賞式	令和5(2023)年3月頃

## 11. 賞牌

このメダルの外形は、西洋では「学術」「発明」「知恵」など、日本では「天眼力」「神通力」にたけた鳥と言われているフクロウの卵を表しています。また中央に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配し、連続模様で「広がり」を表現し、さらなる成長を期待するという趣旨でデザインしました。

（デザイン：東京芸術大学名誉教授 飯野 一朗）



## 12. 日本学術振興会 育志賞 選考委員会委員名簿

令和5年1月現在（敬称略）

氏名	所属機関・職
委員長 清水 孝雄	国立国際医療研究センタープロジェクト長、 微生物化学研究所長
河田 悌一	関西大学東京センター長、 日本私立学校振興・共済事業団前理事長
田中 明彦	国際協力機構理事長
西澤 直子	石川県立大学学長
長谷川 眞理子	総合研究大学院大学学長
花輪 公雄	山形大学理事・副学長
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事
藤巻 朗	名古屋大学副総長、大学院工学研究科教授
八島 栄次	名古屋大学大学院工学研究科教授